

さがしてみよう・見てみよう!

筑波山は、暖かい地方と寒い地方の動植物が生息・生育しています。このコースは、登山をしながら、その移り変わりの様子を見るのに適しています。

1. 山を登ると、どんぐりの種類が変わっていく

山頂	ブナ／ブナ科ブナ属の落葉高木 筑波山でもっとも高いところに生えています。殻は4つに裂け、中には三角錐形の実が2つ入っています。	
700m	ミズナラ／ブナ科コナラ属の落葉高木 山頂付近ではブナと混じって生えています。大きなどんぐりで、殻にイボがたくさんあるのがアカガシとのちがいです。	
600m	アカガシ／ブナ科コナラ属の常緑高木 モミといっしょに、筑波山中腹の深い森を形成しています。殻にしま模様があるのが特徴です。	
400m	スダジイ／ブナ科シイノキ属の常緑高木 暖地の海岸ぞいに多い樹木です。筑波山神社のまわりには巨木が何本も残っています。殻が3つに裂けるのが特徴です。	
200m		

* 樹木と高さの関係は大まかな目安です。

2. 夏の森をいろどる紫陽花3種

		
コアジサイ	ヤマアジサイ	タマアジサイ
花期は5～7月。水色の小花を多数つけます。	花期は6～9月。湿り気のある所を好みます。	花期は8～10月。つぼみが球形をしています。

3. 足元注意! 登山道で出会う昆虫

①トビナナフシ。はねがあり飛ぶことができます。クヌギやシイの木がある森にすんでいます。	②ヒゲナガカミキリ。胸の突起が黄色い。モミのある森に多く見られます。	③キマワリ。枯れ木や倒木の上を歩き回ることが多いです。
④センチコガネ。小動物の糞に産卵します。	⑤キイロスズメバチ。木の洞などに巣を作ります。攻撃性が強いので要注意です。	

4. 高さで変わるセミの分布

①ツクツクボウシ	②ミンミンゼミ	③ニイニゼミ	④ヒグラシ
			
①～⑤は、山ろくから標高500～600m付近にかけて多く見られます。⑥～⑧は標高600mより上に多く、特に⑧は山頂付近にしかいません。			
⑤アブラゼミ	⑥エゾゼミ	⑦エゾハルゼミ	⑧アカエゾゼミ
			

5. 暖かさの指標・常緑の植物たち

登山口の筑波山神社周辺で見られるこれらの植物は、山を登るにしたがって姿を消していきます。どのあたりまで見られるか調べてみましょう。

		
ウラジロ	マメツタ	テイカカズラ
葉の裏が白いシダ植物	木に着生するシダ植物	風車形の花をつける蔓植物
		
フユイチゴ	ヤブコウジ	マンリョウ
冬に実をつける小低木	暗い林に多い小低木	縁起木に利用される小低木
		
ヒイラギ	ユズリハ	クスノキ(マルバクス)
葉に鋭いとげのある低木	葉の柄が赤く目立つ高木	樟脳の原料となる高木



筑波山コース別ガイド 登山コースの自然案内

筑波山神社～御幸ヶ原 (御幸ヶ原コース)